

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	馬関係の職業に挑戦する若者の養成支援事業の教育プログラム開発		
法人名	学校法人日高優駿学園		
学校名	専修学校北海道ホースマンアカデミー		
代表者	理事長 深貝 亨	担当者 連絡先	中島 大助 TEL(01456)2-6688
<p>1. 事業の概要</p> <p>平成18年度の当該委託事業において実施した「馬関係の牧場従業員就労実態調査」から馬の職業に挑戦するためには少なくとも数ヶ月の初歩的な馬の知識と技量を学ぶ経験が必要であることがわかったので、短期教育カリキュラムで実証講座を行い、検証する</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>3ヶ月の教育カリキュラムで、馬の飼養管理の基礎、馬の行動ならびに病気の初歩的知識を教えることが出来、更に乗馬の基本と厩舎実務のマニュアルを一定のレベルまで習得させることが出来た。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>最初の1ヶ月間はかなり馬の扱いに不安感があり、馬の職業への疑問が見受けられたが、常にカウンセリングで向上心と、強い意志を持たせ、更に社会人として自立が必要であることを倫理教育で補い、短期教育プログラムを修了した</p> <p>③今後の活用</p> <p>短期教育プログラム用に開発した教科書を内容的に見直し、座学の内容と実務がマッチングしていくようにするとともに、社会に出て働く楽しさを教える機会を増やすことが大切と思われる</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>短期教育プログラムをデュアルシステムで実施することが可能か検討する。就労先となる牧場等との協議が基本的に必要であろう。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

実証講座生徒10名から教育に関する感想をアンケート調査したり、講義内容のニーズ調査を適宜行った。生徒はニートからの脱却にかなり強い意志を持っていることがわかった。

②カリキュラムの開発

教育カリキュラムの中には社会教育を幅広く取り入れていく必要性を強く感じた。特に最近の若者によく見られる「無気力さ」をいかにして活力ある生活態度に変えていくか大事な指導と考える。

③実証講座

馬の職業に就労させるため、初歩的教育をニートと考えられる生徒10名に対し、千葉県宝馬グラウンドを受け入れ先として実施した。3ヶ月の教育に対する生徒の反応は概ね良好であった。

④その他